

～西松布咏・さがゆき、糸と声のコラボレーション～

いと いとし



秘めた想い、一途な思いを胸に秘めて、
江戸の唄と西洋の歌が、寄り添い、響きあう世界。
歌と共に育ち、生きてきた二人が、
いま、この時代ならではの愛しさ、恋しさを歌います。
いと、いとし。とっても愛しい。
時間と国境を越えた、純粹な愛の世界に触れてください。



日時：2018年5月12日(土) 【開場】15:30 【開演】16:00

出演：西松布咏 (にしまつ・ふえい) 唄と三味線
さがゆき (さが・ゆき) 歌とギター

会場：**祥雲寺本堂** (渋谷区広尾5丁目1-21)

アクセス：メトロ日比谷線広尾駅下車2番出口
広尾橋交差点から広尾商店街に入り、つきあたりの寺社地の一番奥
(同じ敷地に複数の寺院があります)

料金：4,000円(全席自由、税込)

【インターネット予約】 メールでご予約いただき、当日、会場でご清算いただきます。

メール宛先 davekawasaki1964@yahoo.co.jp

お名前、電話番号、枚数を必ずお書きください。遅れる際には、開演時刻までに必ずご連絡ください。
(ご連絡なくご来場頂けない場合は後日代金をご請求申し上げます)

お問い合わせ 川崎隆章 080-4452-5275

いと、いとし

・趣旨、目的

西松布詠、さがゆき両師とも、日本国内のみならず、海外でも高い評価を受けている音楽家で、それぞれ江戸唄とジャズを起点に、隣接する広いジャンルの音楽を絡めながら、広い世界観を歌い上げるのが特徴です。

本企画は、「三味線とギター」「邦楽の発声とジャズの発声」など、それぞれの「違い」を生かしながら、さまざまな時代と心の交差点に生きる「現代人のための音楽」を体験するライブコンサートであり、時代と多文化が自由に重なる広尾・麻布界隈にふさわしい文化発信のイベントです。

地域の方々にもご参加いただける、親しみやすい国際交流・文化交流を体現します。

・内容と志向

ライブでは小唄、端唄、ジャズ、ボサノバ、歌謡曲、オリジナル作品など、持ち歌から親しみやすいものを選ぶほか、特別企画として、それぞれのジャンルの唄を数曲交換して「西松布詠の感性で唄うジャズ」や「さがゆきの感性で唄う江戸唄」もお楽しみいただきます。

邦楽・洋楽それぞれの先端プレイヤー同士が、互いと互いの音楽を「いとしみながら」結びつけ「いと、いとし（とても愛しい）」という人間の根本的情愛を歌い上げるとともに、聞き手の皆さんに一座建立の結びつきをご提供する「心の出会いの場」となることを目指します。



西松布詠

6歳より長唄、三味線の手ほどきをうけ、小唄・富本節・端唄・俗曲・新内・作詞作曲を修行したのち、1981年に地唄の名人・西松文一師に見出され地唄の修行を始める。86年橋場はつえの名で「秘すれば唄」リサイタルを開催、89年「恋すれば唄」90年「哀すれば唄」で新しい邦楽のイメージを創り、日本の知識人の間で高い評価を得る。

90年「布詠」の名で西松流を継承。地唄舞の地方として舞台上で活躍する傍ら、古典邦楽の普及に努め、各地で「江戸情緒の夕べ」を展開。一方、海外においても精力的に活動しアメリカ、ヨーロッパ、アジアの各国で好評を博してきた。

現在は、江戸中期の古い江戸唄から自作の現代曲まで「三味線と声」によるあらゆる演奏活動に挑み、同時に『美紗の会』『粹艶会』を主宰し邦楽の本質を継承するために力を入れている。



さがゆき

東京出身。十代からジャズシンガーとして大小のステージに出演し、その自在な感性と歌声は、中村八大氏から「現代の巫女」と称され、のちに氏の専属歌手となった。さらには、言葉を伴わない「声」を楽器とした幻想的な完全即興を歌える稀有なアーティストとして国際的にも知られ、フランス「Jazz in JapanVI」、アムステルダム「メシアン記念音楽祭」、インド「Jazzヤトラー音楽祭」、オランダ「Northnetheland Jazz Festival」、韓国「光州アートフェスティバル」「全州ソリフェスティバル」などにも招聘され。

ジャズはスウィング期を中心に1910年代から現代まで。そしてボサノヴァ、フアド、歌謡曲、ポップスなどあらゆる時代の人気音楽を掌中に収める。一方で、後進の音楽家を多数輩出し、2009年には高橋悠治作曲「眼の夢」初演を行う等、現代アートの先端にも自在にも出入りしている。

日時：2018年5月12日（土）【開場】15:30【開演】16:00